

平成 23 事業年度

公立大学法人岩手県立大学の業務の実績に関する評価結果

平成 24 年 8 月

岩手県地方独立行政法人評価委員会

目 次

	頁
1 はじめに	1
2 全体評価	
(1) 総評	1
(2) 各分野における平成 23 事業年度の取組	1
3 項目別評価	
(1) 項目別評価状況及び「AA評価（特筆すべき進行状況にある）」の取組	2
(2) 改善が望まれる取組	2
別表 1 全体に比して若干の遅れが認められる方策	3
別表 2 項目別評価の状況及びAA評価（特筆すべき進行状況にある）の取組	4
別表 3 自己評価より評価が低くなった項目及びその理由	9

1 はじめに

本評価委員会は、平成 18 年 5 月に策定した「公立大学法人岩手県立大学に係る各事業年度業務実績評価実施要領」に基づき、

- ① 平成 23 事業年度における中期計画の実施状況の調査
 - ② 当該事業年度における中期計画の実施状況の分析
 - ③ 業務の実績全体についての総合的な評定
- を内容とする評価を行った。(評価の具体的な方法は下記のとおり)

記

(1) 項目別評価

法人による自己評価の結果を基に、法人からのヒアリング等を通じて、年度計画に照らして進捗状況を確認し、自己評価の妥当性の検証と評価を行った。

なお、教育研究等の質の向上に関する項目については、教育研究の特性への配慮から、専門的な観点からの評価は行わず、取組の外形的・客観的な進捗状況の観点からの評価を行った。

また、評価委員会が認める「AA 評価(特筆すべき進行状況にある)」については、

- ① 年度計画に掲げる取組を達成しつつ、更に中期計画に沿った取組が付加・実現されているもの、
- ② 取組の結果、何らかの成果が明らかになっているものを対象とした。

(AA 評価の例)

- ・年度計画において、「制度の創設」を当該年度の取組としていたものについて、実績において「制度を創設」したことに加え、「制度を運用」した場合
- ・積極的な県内企業訪問の結果、県内求人数が増加した場合 など

(2) 全体評価

「項目別評価」の結果及び中期計画の達成状況を踏まえ、中期計画の全体的な進捗状況及び業務の実績全体について総合的な評価を行った。

2 全体評価

(1) 総評

中期計画に基づく平成 23 事業年度計画は「おおむね計画どおり進められた」と認められる。

- 平成 23 事業年度においては、年度計画に掲げる取組 50 項目中、49 項目が「B 評価(おおむね計画どおり進んでいる)」以上と評価され、また、そのうち「A 評価(計画どおり進んでいる)」以上の項目は 66.0% (33 項目) であることから、年度計画全般においておおむね計画通り取組が進められたものと評価できる。

	H23 年度
A 評価以上	33 項目 (66.0%)
B 評価	16 項目 (32.0%)
C 評価	1 項目 (2.0%)
D 評価	0 項目 (0.0%)

- また、「D 評価(重大な改善事項がある)」と評価された項目はなく、「C 評価(やや遅れている)」と評価された項目は 1 項目となっている。
- なお、第 1 期中期計画からの継続課題となっている大学院の定員は依然として充足しておらず、定員確保に向けて引き続き努めるとともに、現在の研究科体制による大学院教育の必要性や適切な定員規模について検討する必要がある。

(2) 各分野における平成 23 事業年度の取組

- 大学の教育研究、地域貢献等における特色ある取組、創意工夫に関しては、
 - ① 5 段階評価及び GPA 制度について、学生目線に立ち、学生にとってわかりやすい成績評価を心がけ、学生の意欲を引き出す成績評価を導入したこと
 - ② 県内 5 大学共通授業「いわて学」を 5 大学の主務校として、一般公開も含めて企画を行って開講し、前・後期合わせて多数の学生が受講した

こと

- ③ 学生ボランティアセンターが「いわてGINGA-NET」を結成して、県内にとどまらず全国の学生ボランティアを招集し、東日本大震災津波被災地の要支援ニーズと学生ニーズを結びつける活動をはじめとした、学生の被災地に対する支援活動を積極的に支援したこと
 - ④ 教員の専門性を活かして東日本大震災津波の復興に必要な地域課題に対し、各学部が積極的に研究を推進したこと
 - ⑤ 平成 23 年 4 月に「いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター（略称：i-MOS）」を設置し、産学共同研究がさらに進められたこと
- など、東日本大震災津波の復興支援に被災地の大学として積極的に取組んだことや、地域の課題に対して県立大学として特色ある取組や創意工夫、またそれによる効果が認められ、高く評価できる。

- 業務運営等の改善及び効率化、財務状況の改善に関しては、
 - ① 教育という特質から、評価が難しいとされる教員の業務評価について、新たな教員業績評価要綱を策定し、試行実施を行い、平成 24 年度から本格実施に結びつけたことは、高く評価できる。
 - ② 教員の定数管理計画を策定し、適正な人事管理が図られたこと、また、施設管理関係業務委託料について、業務の厳選により、大幅に節減を行ったことは、高く評価できる。
- 自己点検・評価及び情報公開に関する取組に関しては、中期計画の項目毎に、関連した部局毎の計画、工程表、各年度計画・実績及び評価指標を網羅した「自己点検・評価マネジメントシステム」の運用を開始し、全学的にPDCAサイクルを定着させ、実績の見える化が図られたことは、高く評価できる。

3 項目別評価

- I 大学の教育・研究等に関する目標を達成するための措置
⇒「おおむね計画どおり進んでいる」。全ての項目が「B評価」以上であり、「A評価」以上の項目が67.6%を占めていることは高く評価できる。
- II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置
⇒「おおむね計画どおり進んでいる」。「A評価」以上の項目が66.7%を占めていることは、高く評価できるが、「C評価」と認められる1項目については、一層の取組が望まれる。
- III 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置
⇒「おおむね計画どおり進んでいる」。全ての項目が「B評価」以上であり、「A評価」以上の項目が50.0%を占めていることは、高く評価できる。
- IV 自己点検・評価・改善及び情報の提供に関する目標を達成するための措置
⇒「計画どおり進んでいる」。全ての項目が「A評価」であったことは高く評価できる。
- V その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置
⇒「おおむね計画どおり進んでいる」。年度計画において3項目のみであるが、全ての項目が「B評価」以上であり、「A評価」が33.3%を占めていることは、高く評価できる。

※VI～IXについては、平成 23 事業年度は年度計画の設定なし。

- (1) 項目別評価の状況及び「AA評価(特筆すべき進行状況にある)」の取組別表2のとおり
- (2) 改善が望まれる取組
事務職員の専門性向上を図るSD（スタッフ・ディベロップメント）活動を積極的に推進する取組について、唯一「C評価（やや遅れている）」と認められた。
これは震災による影響により当初の計画が実施できなかったことが主な理由であるが、教職員が一体となったさらなる教育の質の向上など、大学が重点的に取り組む必要がある課題に適切に対応するため、大学職員としての高い識見と能力を持った職員の養成が急務である。

【別表1】全体に比して若干の遅れが認められる方策

「中期計画に掲げる方策」のうち、下記の基準により判断したもの。

【基本的な判断基準】

第2期中期計画期間を通じてA評価とされた事業年度がなく、かつC又はD評価とされた事業年度がある方策

中期計画に掲げる方策	現状・課題	H23
II. 業務運営の改善及び効率化に関するもの		
<p>事務職員の専門性向上を図るSD（スタッフ・ディベロップメント）活動を積極的に推進する。</p>	<p>事務職員の専門性向上を図るSD（スタッフ・ディベロップメント）活動を積極的に推進する取組について、唯一「C評価（やや遅れている）」と認められた。 これは震災による影響により当初の計画が実施できなかったことが主な理由であるが、教職員が一体となったさらなる教育の質の向上など、大学が重点的に取り組む必要がある課題に適切に対応するため、大学職員としての高い識見と能力を持った職員の養成が急務である。</p>	<p>C</p>

【別表2】項目別評価の状況及びAA評価（特筆すべき進行状況にある）の取組

評価の判断基準

法人の実績報告において「特記事項」として報告されているもののうち、下記と認められるもの

①年度計画に掲げる取組を達成しつつ、更に中期計画に沿った取組が付加・実現されているもの

②取組の結果、何らかの成果が明らかになっているもの

区分	評価				AA評価項目	摘要	
	区分	法人	委員会	委員会評価の割合%			
I 大学の教育・研究等に関する目標を達成するための措置 「おおむね計画どおり進んでいる」と判断される ※AA~B 評価割合 100.0%	AA		8	23.5	◎全学的な取り組み ① 高大連携の推進(No.2) ・出前講義、大学見学のこれまでの取組の検証を踏まえ、出前講義のメニューの見直しや前期・後期の2期制の導入、キャンパス・アテンダントによる体験談発表の導入や教員向け見学会の拡充を行うなど効率的な運用に努めた。 ・7月3日に開催したオープンキャンパスでは、被災地の高校からのバス費用を大学が負担（7校16台分）し、昨年度より700人増の2,500人の参加者数となり、また、高校生の進路選択の重要なポイントとなる「文・理選択ポイント講座」を平成23年度新たに開設し、1・2年生を中心に多数の来場者を集めた。12月18日に「入試直前説明会」をマリオスで開催し、各高校から133人の参加者があった。 ・新たな入学志願者確保に向けた取組として、学生による大学広報を開始し、学生36名をキャンパス・アテンダントとして委嘱し、大学見学に来た高校生等へのキャンパス案内をはじめ、母校訪問(4校)の活動、高校の大学訪問への対応(39校)、高校教員向け大学見学会での対応(6月、11月)など年間を通じて様々な場面で活動した。 ・各学部でも県内高校の学部説明会等を実施したほか、近隣の県外高校への訪問活動を強化し、受験直前期である1月にも訪問活動を行い、志願者確保のための活動を行った。(高校訪問実績：春季86校、秋季86校、センター入試直後41校) ・高大連携の取組として、本学教員が盛岡一高での英語授業見学を行い、次年度以降の連携に向けて意見交換を行ったほか、校長協会との懇談会を、これまでの1回から2回の開催とし、双方が共有する教育的課題をテーマに意見交換を実施した。 ② 新成績評価制度の導入(No.11) ・5段階評価及びGPA制度導入を軸とした新たな成績評価制度について、平成22年10月に設置した成績評価制度ワーキンググループにおいて制度の検討を進め、先進事例調査、全学FD研修会等を行い、新たな成績評価制度の平成24年度全学導入を決定した。 ・入学時の英語のプレイスメントテストについて、TOEIC Bridge テストの成績分布状況を検討し、クラス分けの妥当性を検証した。 ・ソフトウェア情報学部では、JABEE準拠の成績評価方法とGPAの導入に関する検討を行った結果、矛盾しないことが判明し、GPA制度を導入することとした。	◎入試の状況 (人・%) ※志願倍率=志願者数/入学定員 実質倍率=受験者数/合格者数 ○「本学が第一希望」の割合 (新生アンケート、%)	
	A	23	15	44.1			
	B	11	11	32.4			
	C	0	0	0.0			
	D	0	0	0.0			
	計	34	34	100.0			
※凡例 AA：特筆すべき進行状況にある A：計画どおり進んでいる。 B：おおむね計画どおり進んでいる。 C：やや遅れている。 D：重大な改善事項がある。							
区分		H22	H23				
県立大学	学部	入学者数	463	458			
		志願者数	2,144	2,531			
		志願倍率	4.9	5.8			
	大学院	入学者数	62	58			
		志願者数	78	70			
		志願倍率	0.7	0.4			
盛岡短期大学部	入学者数	104	105				
	志願者数	242	235				
	志願倍率	2.4	2.4				
	実質倍率	1.4	1.3				
宮古短期大学部	入学者数	104	91				
	志願者数	164	131				
	志願倍率	1.6	1.3				
	実質倍率	1.2	1.0				
県大	第一希望	80.5	77.2				
	第二希望	10.6	13.4				
	第三希望以下	8.9	9.4				
	盛短	第一希望	59.6	61.2			
第二希望		27.7	24.5				
第三希望以下		12.7	14.3				
宮短	第一希望	76.7	67.4				
	第二希望	17.4	18.6				
	第三希望以下	5.8	14.0				

区分	評価			AA評価項目	摘要																																																																																																																
	区分	法人	委員会 割合%																																																																																																																		
				<p>③ 修学困難な学生、特別な支援を必要とする学生の支援(No18)</p> <ul style="list-style-type: none"> 通常の経済的事情による授業料減免のほか、震災発生後、いち早く被災学生に係る授業料・入学料の減免制度を新設し、(延人数 授業料：269名、入学料：47名)、平成24年度にも実施を継続することとした。 総合政策学部では、「総合政策学部被災学生救済基金」を設立・運営し、学部被災学生へ財政支援を行い、修学環境の改善に努めた。 発達障がいや聴力障がいをもつ学生など特別な支援を要する学生に対して、各種支援策を検討、実施した。①事務局内の複数部署からなる担当者の連絡会議の設置。②学部と本部の連携によるノートテイカーを新たに配置。③学内研修会「発達障がいへの理解を深めるために」の開催(67名受講)。 <p>④ 学生の活動支援(No19)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生会のリーダー研修会を初めて開催し、活動の円滑化に向けた意見交換を実施し、学生会活動の課題を共有するとともに、各団体の交流を深めた。 大震災被災地の要支援ニーズと学生ボランティアのニーズを結びつけるため、本学の学生ボランティアセンターが、NPOの協力を得て「いわてGINGA-NET」を結成し、往田町五葉地区公民館を拠点に、夏には、全国147大学から1,107名の学生が滞在しボランティア活動を実施した。活動の円滑な実施のため、活動拠点の確保や資機材の手配、現地への職員派遣、全国から訪れた大学教員への対応を行うなど、積極的に支援を行った。 <p>⑤ 就職先の開拓、県内企業の掘り起こし、公務員対策等の就職支援(No21)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公務員対策について、新たに主催事業者を選定し、公務員講座を開始させ、各学部の進路に適合した講座、欠席者のビデオ聴講によるフォローアップ等改善を図った。 総合政策学部において、平成23年度に「地域公共人材研究センター」を設置し、学習の場の提供、模擬テスト会の実施等対策を強化した。 <p>これらの結果、平成23年度公務員試験合格者は県内外で過去最多の54名となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習先機関への雇用拡大・早期求人については、震災の影響・配慮から、要請には至らなかった。 県内企業の掘り起こしについては、地場企業の見学会の実施、県内医療機関を優先的に配慮した病院等説明会開催、IPU就業サポーター制度の導入、就業力育成シンポジウムの開催等を行うとともに、各学部等において説明会の開催や企業とのネットワーク作りを行い、学生の企業理解の促進と就業先の開拓を進めた。 <p>①県内企業18社参加のいわて情報産業就職フォーラムの開催。【ソフトウェア情報学部】 ②就職・進学支援講座を開催。県内企業22社への企業訪問と求める人材の調査を実施。【盛岡短期大学部】 ③保護者進路相談会を盛岡と宮古で開催。【宮古短期大学部】</p>	<p>○学生定員充足状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">県立大学</td> <td rowspan="3">学部</td> <td>定員</td> <td>1,840</td> <td>1,840</td> </tr> <tr> <td>在籍数</td> <td>1,961</td> <td>1,974</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td>106.6</td> <td>107.3</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">大学院</td> <td>定員</td> <td>239</td> <td>239</td> </tr> <tr> <td>在籍数</td> <td>195</td> <td>189</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td>81.6</td> <td>79.1</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">盛岡短期大学部</td> <td>定員</td> <td>200</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>在籍数</td> <td>209</td> <td>206</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td>104.5</td> <td>103.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">宮古短期大学部</td> <td>定員</td> <td>200</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>在籍数</td> <td>215</td> <td>212</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td>107.5</td> <td>106.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(H23.5.1時点、人・%)</p> <p>○ボランティア活動参加率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H21</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボランティア活動参加率</td> <td>25.1</td> <td>40.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(卒業年次生アンケート、%)</p> <p>○就職の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">県立大学</td> <td>県内就職者数</td> <td>138</td> <td>165</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>40.6</td> <td>46.2</td> </tr> <tr> <td>県外就職者数</td> <td>202</td> <td>192</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>59.4</td> <td>53.8</td> </tr> <tr> <td>計(就職者数)</td> <td>340</td> <td>357</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>93.7</td> <td>94.9</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">盛岡短期大学部</td> <td>県内就職者数</td> <td>35</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>63.6</td> <td>74.2</td> </tr> <tr> <td>県外就職者数</td> <td>20</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>36.4</td> <td>25.8</td> </tr> <tr> <td>計(就職者数)</td> <td>55</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>88.7</td> <td>98.4</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">宮古短期大学部</td> <td>県内就職者数</td> <td>50</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>83.3</td> <td>68.5</td> </tr> <tr> <td>県外就職者数</td> <td>10</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>16.7</td> <td>31.5</td> </tr> <tr> <td>計(就職者数)</td> <td>60</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>82.2</td> <td>92.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>(H24.3.31時点、人・%)</p>	区分		H22	H23	県立大学	学部	定員	1,840	1,840	在籍数	1,961	1,974	充足率	106.6	107.3	大学院	定員	239	239	在籍数	195	189	充足率	81.6	79.1	盛岡短期大学部	定員	200	200	在籍数	209	206	充足率	104.5	103.0	宮古短期大学部	定員	200	200	在籍数	215	212	充足率	107.5	106.0	区分	H21	H23	ボランティア活動参加率	25.1	40.0	区分		H22	H23	県立大学	県内就職者数	138	165	割合	40.6	46.2	県外就職者数	202	192	割合	59.4	53.8	計(就職者数)	340	357	割合	93.7	94.9	盛岡短期大学部	県内就職者数	35	46	割合	63.6	74.2	県外就職者数	20	16	割合	36.4	25.8	計(就職者数)	55	62	割合	88.7	98.4	宮古短期大学部	県内就職者数	50	50	割合	83.3	68.5	県外就職者数	10	23	割合	16.7	31.5	計(就職者数)	60	73	割合	82.2	92.4
区分		H22	H23																																																																																																																		
県立大学	学部	定員	1,840	1,840																																																																																																																	
		在籍数	1,961	1,974																																																																																																																	
		充足率	106.6	107.3																																																																																																																	
	大学院	定員	239	239																																																																																																																	
		在籍数	195	189																																																																																																																	
		充足率	81.6	79.1																																																																																																																	
盛岡短期大学部	定員	200	200																																																																																																																		
	在籍数	209	206																																																																																																																		
	充足率	104.5	103.0																																																																																																																		
宮古短期大学部	定員	200	200																																																																																																																		
	在籍数	215	212																																																																																																																		
	充足率	107.5	106.0																																																																																																																		
区分	H21	H23																																																																																																																			
ボランティア活動参加率	25.1	40.0																																																																																																																			
区分		H22	H23																																																																																																																		
県立大学	県内就職者数	138	165																																																																																																																		
	割合	40.6	46.2																																																																																																																		
	県外就職者数	202	192																																																																																																																		
	割合	59.4	53.8																																																																																																																		
	計(就職者数)	340	357																																																																																																																		
	割合	93.7	94.9																																																																																																																		
盛岡短期大学部	県内就職者数	35	46																																																																																																																		
	割合	63.6	74.2																																																																																																																		
	県外就職者数	20	16																																																																																																																		
	割合	36.4	25.8																																																																																																																		
	計(就職者数)	55	62																																																																																																																		
	割合	88.7	98.4																																																																																																																		
宮古短期大学部	県内就職者数	50	50																																																																																																																		
	割合	83.3	68.5																																																																																																																		
	県外就職者数	10	23																																																																																																																		
	割合	16.7	31.5																																																																																																																		
	計(就職者数)	60	73																																																																																																																		
	割合	82.2	92.4																																																																																																																		

区分	評価				A A 評価項目	摘要																																																			
	区分	法人	委員会	委員会評定の割合%																																																					
					<p>⑥ 専門領域を活かした研究・地域課題に対応した研究の推進 (No.23)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学部において本学教員の専門性を活かして東日本大震災津波の復興支援に関連した研究を進めた。 ①学部プロジェクト研究を震災復興支援に重点化して実施。【ソフトウェア情報学部】 ②防災・復興研究会を設置し、社会調査、産業経済・行政、社会・環境基盤チームに分かれ、共同研究を推進。【総合政策学部】 学術研究費について、外部の評価委員会における評価、他大学教員による書面評価を実施し、評価結果を教員にフィードバックする学内体制を整備した。 公募型地域課題研究については、平成 22 年度に採択された 37 課題の研究を引き続き実施した。また、平成 24 年度に向け、これまでの研究成果を検証し、制度の改善に向け検討を行い地域協働研究（教員提案型、地域提案型）を創設し、新たな研究体系の下で地域課題研究を進めることとした。 <p>⑦ いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンターの設置と共同研究や高度技術者育成の推進 (No.29)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 23 年 4 月に「いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター（略称：i-MOS）」を設置し、ソフトウェア情報学部の協力のもと運営体制を構築した。 センターを活用した企業との共同研究に着手（学内公募 9 件、外部資金 4 件採択）したほか、高度技術者育成の講習会を実施（16 講座、136 名受講）した。 <p>⑧ 地域課題の解決に向けた取組の強化 (No.30)</p> <ul style="list-style-type: none"> 岩手県の地域課題に対して、各学部の専門知識や本学の人的資源を活用し、自治体等と連携して課題解決に向けた実践活動、地域貢献活動を展開した。 ①看護実践研究センターにおいて、自律した看護職育成のための継続教育を実践。 <ul style="list-style-type: none"> ア：センター主催事業として 9 つの継続教育プログラムを実施、県から新人看護職員研修など 3 つの研修を受託 イ：県内の 7 つの病院施設から個別に研修等を受託 ウ：教員派遣 ②震災を受けて、復興関連をテーマに自治体等のニーズに応じた研究や地域貢献活動を展開 <ul style="list-style-type: none"> ア：県で実施したスクールカウンセラー派遣事業を支援【社会福祉学部】 イ：大船渡の復興計画事業に関するワークショップに参画【総合政策学部】 ウ：木質がれきの再資源化、被災者の食の意識変化から食生活の方向性のデザイン【盛岡短期大学部】 エ：地元市町村、商工会等からの研究会、審議会等に積極的に参画【ソフトウェア情報学部、宮古短期大学部】 震災を受け、平成 23 年 4 月に災害復興支援センターを設置し、学内の震災復興支援活動について、様々な支援を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ①ボランティアを希望する学生に、事前研修の実施、ボランティア保険の加入 ②「ボランティアバス」の運行（5 回） ③学部等のボランティア活動に必要な物資の提供、必要経費の配分 法政大学地域研究センター「第 9 回地域政策研究賞」において、盛岡市まちづくり研究所による「盛岡市における政策分析のための定量的情報の整備と活用」の研究が、優秀賞を獲得した。（全国で 2 例のみ） 	<p>○外部研究資金の獲得状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">外部研究資金受入</td> <td>件数</td> <td>166</td> <td>153</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>165,325</td> <td>173,269</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">うち 科研費</td> <td>件数</td> <td>63</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>67,528</td> <td>71,075</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">（件・千円）</p> <p>注）科研費については、継続及び他大学と共同実施した研究の分担金を含むこと。</p> <p>○科学研究費補助金新規採択状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>申請件数</td> <td>68</td> <td>74</td> </tr> <tr> <td>申請金額</td> <td>349,918</td> <td>356,890</td> </tr> <tr> <td>採択件数</td> <td>22</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>採択金額</td> <td>54,452</td> <td>59,261</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">（件・千円）</p> <p>○受託・共同研究数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>共同研究数</td> <td>70</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>受託研究数</td> <td>19</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>89</td> <td>89</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">（件）</p> <p>○高度技術者育成講座受講者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高度技術者育成講座受講者数</td> <td>71</td> <td>136</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">（人）</p>	区分		H22	H23	外部研究資金受入	件数	166	153	金額	165,325	173,269	うち 科研費	件数	63	64	金額	67,528	71,075	区分	H22	H23	申請件数	68	74	申請金額	349,918	356,890	採択件数	22	18	採択金額	54,452	59,261	区分	H22	H23	共同研究数	70	64	受託研究数	19	25	合計	89	89	区分	H22	H23	高度技術者育成講座受講者数	71	136
区分		H22	H23																																																						
外部研究資金受入	件数	166	153																																																						
	金額	165,325	173,269																																																						
うち 科研費	件数	63	64																																																						
	金額	67,528	71,075																																																						
区分	H22	H23																																																							
申請件数	68	74																																																							
申請金額	349,918	356,890																																																							
採択件数	22	18																																																							
採択金額	54,452	59,261																																																							
区分	H22	H23																																																							
共同研究数	70	64																																																							
受託研究数	19	25																																																							
合計	89	89																																																							
区分	H22	H23																																																							
高度技術者育成講座受講者数	71	136																																																							

区分	評価				A A評価項目	摘要																																
	区分	法人	委員会	委員会評価の割合%																																		
						<p>○地域貢献の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">公開講座</td> <td>開講講座数</td> <td>26</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>受講者数</td> <td>2,946</td> <td>2,951</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">施設の学外利用者</td> <td>図書館</td> <td>7,710</td> <td>5,845</td> </tr> <tr> <td>体育施設等</td> <td>20,064</td> <td>23,950</td> </tr> <tr> <td>アイーナキャンパス</td> <td>18,026</td> <td>16,460</td> </tr> <tr> <td colspan="2">審議会委員等への就任、講師派遣数</td> <td>880</td> <td>753</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">うち</td> <td>行政機関</td> <td>420</td> <td>318</td> </tr> <tr> <td>非常勤講師</td> <td>138</td> <td>127</td> </tr> </tbody> </table> <p>(講座・人)</p>	区分		H22	H23	公開講座	開講講座数	26	31	受講者数	2,946	2,951	施設の学外利用者	図書館	7,710	5,845	体育施設等	20,064	23,950	アイーナキャンパス	18,026	16,460	審議会委員等への就任、講師派遣数		880	753	うち	行政機関	420	318	非常勤講師	138	127
区分		H22	H23																																			
公開講座	開講講座数	26	31																																			
	受講者数	2,946	2,951																																			
施設の学外利用者	図書館	7,710	5,845																																			
	体育施設等	20,064	23,950																																			
	アイーナキャンパス	18,026	16,460																																			
審議会委員等への就任、講師派遣数		880	753																																			
うち	行政機関	420	318																																			
	非常勤講師	138	127																																			
<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置</p> <p>「おおむね計画どおり進んでいる」と判断される</p> <p>※AA～B 評価割合 83.4%</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>AA</td> <td></td> <td>1</td> <td>16.7</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>50.0</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>16.7</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>16.6</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>	AA		1	16.7	A	4	3	50.0	B	1	1	16.7	C	1	1	16.6	D	0	0	0.0	計	6	6	100.0	<p>① 教員業績評価制度の実施(No.37)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成23年度に、新たな教員業績評価要綱を策定し、試行実施した。 試行における評価者及び被評価者の意見を踏まえて評価方法の改善を図り、平成24年度から処遇に反映させて本格実施することとした。 全学における学長表彰のほか、学部においても独自に学部長表彰を実施した。 	<p>○頑張っている業務をやれば正当に評価されていると思う教職員の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H21</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>頑張っている業務をやれば正当に評価されていると思う教職員の割合</td> <td>20.8</td> <td>38.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>(教職員アンケート、%)</p> <p>※そう思う+ややそう思う/回答者</p>	区分	H21	H23	頑張っている業務をやれば正当に評価されていると思う教職員の割合	20.8	38.7					
AA		1	16.7																																			
A	4	3	50.0																																			
B	1	1	16.7																																			
C	1	1	16.6																																			
D	0	0	0.0																																			
計	6	6	100.0																																			
区分	H21	H23																																				
頑張っている業務をやれば正当に評価されていると思う教職員の割合	20.8	38.7																																				
<p>III 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置</p> <p>「おおむね計画どおり進んでいる」と判断される</p> <p>※AA～B 評価割合 100.0%</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>AA</td> <td></td> <td>1</td> <td>25.0</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>25.0</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>50.0</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>	AA		1	25.0	A	3	1	25.0	B	1	2	50.0	C	0	0	0.0	D	0	0	0.0	計	4	4	100.0	<p>① 適正な人事管理と予算の執行(No.44)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員定数管理計画が人事委員会で合意され、当該計画に基づいて人事管理を行った。 全教職員を対象にした平成24年度予算編成方針等に係る説明会において、第2期中期計画における財務見通しについて説明するとともに、予算執行の適正化について徹底を図った。 施設管理関係業務委託料について、委託業務の厳選化により、平成22年度契約額 249,863千円に比べ 25,588千円(約10%)の節減を行った。 	<p>○本学の経営状況を把握、理解している教職員の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H21</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本学の経営状況を把握、理解している教職員の割合</td> <td>29.5</td> <td>38.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>(教職員アンケート、%)</p> <p>※そう思う+ややそう思う/回答者</p>	区分	H21	H23	本学の経営状況を把握、理解している教職員の割合	29.5	38.2					
AA		1	25.0																																			
A	3	1	25.0																																			
B	1	2	50.0																																			
C	0	0	0.0																																			
D	0	0	0.0																																			
計	4	4	100.0																																			
区分	H21	H23																																				
本学の経営状況を把握、理解している教職員の割合	29.5	38.2																																				

区分	評価				AA評価項目	摘要												
	区分	法人	委員会	委員会評価の割合%														
IV 自己点検・評価・改善及び情報の提供に関する目標を達成するための措置 「計画どおり進んでいる」と判断される ※AA～B 評価割合 100.0%	AA		2	66.7	① 自己点検・評価の改革・改善とPDCAサイクルの学内の定着(No.45) ・中期計画の項目にそって部局毎の計画、工程表、各年度計画・実績及び評価指標を網羅した「自己点検・評価マネジメントシステム」の運用を開始した。システム導入により、誰もが容易にデータにアクセスすることが可能となり、学内での共有、データ収集や計画の全体像の把握等利用拡大を図った。 ・「自己点検・評価システム」の勉強会の実施、全教職員対象にしたシステムの概要説明会を開催するとともに、実際に平成24年度計画策定にもシステムを活用し、全部局の年度計画、年度実績の見える化を進め、教職員の改善意識の向上を図った。 ② 効果的な情報発信と広報活動の充実(No.46) ・主要な広報媒体について、統一感をもったデザインと内容で作成するための編集体制を整え、入試案内、広報誌、年報のデザインを統一した。 ・新ホームページへの移行後は、更にCMS方式(Content Management System:一定のテンプレートに従って文字、画像や添付ファイル等を入力することにより、自動でホームページの体裁を整えて公開するシステムの総称)へ転換して各担当者による更新を容易にしたほか、訪問者別に掲載情報を整理し、より少ないクリックで目的情報に到達できるよう掲載方法の改善に継続的に取り組み、効果的な情報発信を行った。 ・広報の必要性等を整理し、新たに教職員を対象とした広報に対する認識を高めてもらうための研修を実施した。	○中期目標・計画を知っている教職員の割合 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H21</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中期目標・計画を知っている教職員の割合</td> <td>74.5</td> <td>76.0</td> </tr> </tbody> </table> (教職員アンケート、%) ※そう思う+ややそう思う/回答者 ○ホームページアクセス件数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H21</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ホームページアクセス件数</td> <td>3,212,105</td> <td>3,664,895</td> </tr> </tbody> </table> (件)	区分	H21	H23	中期目標・計画を知っている教職員の割合	74.5	76.0	区分	H21	H23	ホームページアクセス件数	3,212,105	3,664,895
	区分	H21	H23															
	中期目標・計画を知っている教職員の割合	74.5	76.0															
	区分	H21	H23															
	ホームページアクセス件数	3,212,105	3,664,895															
	A	3	1	33.3														
B	0	0	0.0															
C	0	0	0.0															
D	0	0	0.0															
計	3	3	100.0															
V その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置 「おおむね計画どおり進んでいる」と判断される ※AA～B 評価割合 100.0%	AA		0		○原油換算エネルギー使用量(kl) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原油換算エネルギー使用量</td> <td>2,150</td> <td>1,830</td> </tr> </tbody> </table> (kl)	区分	H22	H23	原油換算エネルギー使用量	2,150	1,830							
	区分	H22	H23															
	原油換算エネルギー使用量	2,150	1,830															
	A	2	1	33.3														
	B	1	2	66.7														
	C	0	0	0.0														
D	0	0	0.0															
計	3	3	100.0															
合計	AA		12	24.0														
	A	35	21	42.0														
	B	14	16	32.0														
	C	1	1	2.0														
	D	0	0	0.0														
	計	50	50	100.0														

【別表3】自己評価より評価が低くなった項目及びその理由

【評価基準】
 A:計画どおり進んでいる。(計画達成)
 B:おおむね計画どおり進んでいる。(8割以上～10割未満)
 C:やや遅れている。(6割以上～8割未満)

中期計画	平成23事業年度評価結果				
	年度計画	計画の進行状況等	自己評価	評価委員会評価	
○法人の健全経営に資するため、授業料、学内施設利用料などの安定的な確保に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 未収授業料債権の回収計画を策定し、併せて債権管理マニュアルを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 未収授業料債権回収計画については授業料納付事務取扱要領を定め、督促時期を明確化し定期的に未納者に対して督促(回収)に努めた。 債権管理マニュアルについては、実務担当者向マニュアルを作成し、業務の効率化を図った。 	A	B	<p>実務担当者向マニュアルを作成されているが、債権を総括して管理するものとは言いえず不十分であり、今後改善の余地があるため、「計画どおり進んでいる」(A:「計画を達成した」とまでは認められないため。(B:「おおむね計画どおり進んでいる」(8割以上～10割未満))</p>
○各キャンパス施設の機能や利用状況を定期的に点検・把握し、施設設備の計画的な修繕等を進めながら、施設設備の有効活用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に施設設備の保全状況を調査し、必要に応じて修繕等を行う。 施設設備の維持修繕計画に基づき、修繕を実施する。 全学的視点に立った施設配置を図るため、各学部の遊休施設を調査し、管理権限の明確化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 震災によるメディアセンター柱の修理等(23,000千円)を実施した。 平成24年度から平成28年度における施設大規模修繕計画を平成24年1月の理事会議ではかり、平成24年度は中央監視装置及びパネルヒーターの更新工事を行うこととし、計画の実施については今後の協議の上決定することとした。 遊休施設の調査については、震災による被害調査や修繕等を最優先に行い、遊休施設調査は実施しなかった。 学内情報システムについて、新たなニーズに対応しながら最適化を進めるため、各システムの更新時に可否を検討するとともに、全学的検討組織を設置して平成25年度からの5年を期間とする第四次情報システム整備計画の策定作業に着手した。 	A	B	<p>遊休施設の調査について、震災の影響により実施できなかったため、「計画どおり進んでいる」(A:「計画を達成した」とまでは認められないため。(B:「おおむね計画どおり進んでいる」(8割以上～10割未満))</p>

